

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101652
法人名	社会福祉法人 すだち会
事業所名	すだち会グループホーム
所在地	徳島県徳島市大原町余慶71-2 (電話) 088-663-5751

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 11 月 20 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 3 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤:16人、非常勤1人、常勤換算:ユニット① 7.25人 ユニット②8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,900 円	その他の経費(月額)	光熱水費:6,000円、その他:実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 3 日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	75 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	リハビリテーション大神子病院、うやま歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園に囲まれ、近くに日の峰広域公園がある静かな住宅地に建てられている。全居室の大きな窓からは、春は桜、秋は紅葉などの季節の移り変わりが眺められ、天気よければ山の谷間から日の出を楽しめる。初日の出を拝んだり、近くの大神子海岸でバーベキューを楽しんだり、ベランダで昼食を摂るなど豊かな自然環境を活かした支援が日常的に行われている。管理者・職員は、意識してコミュニケーションの時間をつくり、利用者の話に耳を傾け、「地域の中で笑顔と安心にみちた毎日」が送れるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での改善課題は、①「地域密着型サービスとしての理念」②「理念の共有と日々の取り組み」③「運営推進会議を活かした取り組み」④「市町村との連携」⑤「家族等への報告」⑥「重度化や終末期に向けた方針の共有」であった。①、②、④、⑤、⑥については、改善されているが、③については、改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を全職員に配布し、それぞれが書き込み、管理者が集約している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催されている。参加者は利用者・利用者家族・民生委員・地域包括支援センター職員・併設特養の施設長・管理者・職員であり、年間行事予定・運営状況報告・評価結果報告等を議題とし、意見交換され議事録が保管されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会が頻繁な家族とは話し合う機会が多く、面会時に意見を聞いている。家族が遠方の場合、年1回の家族会やホーム便りにて利用者の状況報告を添える等の工夫を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所で行う「口腔ケアについて」の研修への参加を地域の方々に呼び掛けたり、近くの小学校で2か月ごとに行われる廃品回収に職員と利用者が毎回参加するなど、地域との交流に努めている。また近くの団地の住民の来訪や小学生の見学などがある。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営推進会議で話し合われた内容をもとに職員間で検討し、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	引き継ぎ時に毎日唱和し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所で行う「口腔ケアについて」の研修への参加を地域の方々に呼び掛けたり、近くの小学校で2か月ごとに行われる廃品回収に職員と利用者が毎回参加するなど、地域との交流に努めている。また近くの団地の住民の来訪や小学生の見学などがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。外部評価結果については運営推進会議で報告して参加者に意見をもらい、課題の改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催されている。参加者は利用者・利用者家族・民生委員・地域包括支援センター職員・併設特養の施設長・管理者・職員であり、年間行事予定・運営状況報告・評価結果報告等を議題とし、意見交換され議事録が保管されている。しかし、具体的な討議内容の記録はなく、職員の情報共有についても不十分である。	○	議事録は検討内容を把握できるよう記録し、職員全員が閲覧し共有されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新手続などで市役所に出向いた時や電話連絡、メール連絡等で質問や相談を頻回に行い、話し合える関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会が頻繁な家族とは話し合う機会が多く、面会時に意見を聞いている。家族が遠方の場合、年1回の家族会やホーム便りにて利用者の状況報告を添える等の工夫を行っている。また全利用者の家族に年4回ほどホーム便りを送り、生活の様子などを知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、外部の苦情相談窓口については、ポスターを掲示板に貼り周知している。また、面会時を利用して、意見や要望を遠慮なく言ってもらえる雰囲気づくりを心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他事業所への異動はなく、ユニット間の異動や離職も最小限に抑えられている。やむを得ない場合には重複期間を設けて馴染みの関係を築きやすいよう工夫するなど、利用者の負担を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行われる研修に参加している。しかし、参加していない職員には口頭での伝達にとどまっていることもあり、報告書の提出や回覧などができていない。	○	研修参加後は報告書を作成して全職員に回覧し、確認印・サインするなどして情報を共有できる仕組みづくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修に参加した際などに交流を図っている。また相互評価事業で知り合った事業所とは、情報交換を続けるなどの連携によりサービスの質の向上に取り組んでいる。また関連法人のグループホーム3か所と年に2回交流会を持ち、行事などの際にも参加しあっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学や、日中家族と一緒に何日間か通って他の利用者と交流してもらうなどしている。また短期利用型共同生活介護の利用体験にて納得して無理なくホームに馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	経験豊富な利用者から家庭菜園の作業方法や調理、礼儀作法を教えられることがある。また、利用者からねぎらいの言葉をかけられることがあるなど、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が利用者一人ひとりの生活への思いや希望の把握に努め、日々の支援に反映している。また誕生会の恒例行事として、主役の利用者が十分楽しめるよう担当職員が企画・実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月、ケース会議を開催して課題分析と評価を行っている。家族や関係者、受診時の医療関係者から意見を聞き、職員による日々の気づきなどを参考にしながら介護計画を作成している。計画書には本人・家族の確認印がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後は1か月、通常は介護計画の期間に応じた見直しを行っている。また状態変化時には利用者や家族、必要な関係者と相談しながら随時、見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族などと相談しながら、通院介助など柔軟に対応している。また短期利用型共同生活介護の利用も可能な状況となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望に応じたかかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、事業所として受け入れられるのは、医療が必要になるまでの期間と定めていることを職員間で共有し、家族にも入居時に説明されている。入居後の状態についてはその都度関係者で話し合い、職員・家族間で対応が共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的な言葉かけや入浴・排泄の支援時などには、職員がお互いに注意し合いながら利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した取り組みを行っている。個人情報の取り扱いにも留意し、記録等は決められた場所で適切に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度決められた生活パターンの中であっても、食事の時間をずらしたり、延長したり、家族との時間を優先するなど、一人ひとりの希望にそった暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンで料理が得意な利用者到手伝ってもらったり、おやつや材料や果物類を一緒に買いに行ったりしている。また食事は明るい食堂やベランダなどで楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じて入れるよう支援している。足が冷える利用者への毎晩の足浴も行われており大変喜ばれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが能力に応じて何らかの役割(モップかけ・掃除機かけ・カーテンの開閉・食台拭き・洗濯物干し・植木の剪定・ゴミ出し等)を持ち、楽しんでいる。また気晴らしの支援として定期的に遠足や外出などの行事も定期的に計画・実施し、家族にも参加してもらうなどしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩に加えて、買い物や通院・美容院など外出できる機会を積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中は施錠していない。また見守りや言葉かけで常に利用者の居場所を把握し、安全面に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回の利用者と職員による火災訓練、年に1回の消防署指導による訓練を実施している。また地域の協力を得られるよう働きかけ、訓練には近隣住民の参加もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列施設の管理栄養士が作成した献立を参考にし、栄養バランスに配慮した食事を提供している。食事・水分摂取量については毎回記録している。摂取量の変化時にはかかりつけ医の指示を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は明るくゆったりしたスペースがあり、テレビやソファが置かれている。また畳を敷いた場所もあり、季節の生け花が飾られており、利用者が集まりやすく居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや仏壇、行事説明用のカレンダーなどを配置し、家庭的な雰囲気の居室づくりを行っている。また各居室には備え付けの収納スペースが明るい色のカーテンで仕切られ、部屋全体がすっきりとしている。		